



第一三共グループ 会社案内

Corporate Brochure

Passion for Innovation.
Compassion for Patients.®



Passion for Innovation. Compassion for Patients.®

【企業理念】

革新的医薬品を継続的に創出し、
多様な医療ニーズに応える医薬品を提供することで、
世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する。
第一三共グループの企業理念の実践のために、
役員および社員は、コア・バリューとコミットメントを
意思決定や価値判断の基準とし、そして、コーポレートスローガンは、
コア・バリューとコミットメントで表現されている
第一三共らしさをベースに、私たちが何をどのようにして、
そして誰のために取り組んでいるかを簡潔に宣言したものです。
また、生命関連企業としてふさわしい高い倫理観と社会的良識を
もって行動し、社会的責任を果たすことを
第一三共グループ企業行動憲章に定め、企業活動を行います。

【2025年ビジョン】

がんに強みを持つ先進的グローバル創薬企業
がん事業を中心とするスペシャルティ領域*1での事業が中核
各国市場に適合したリージョナルバリュー製品*2が豊富
SOC*3を変革する先進的な製品・パイプラインが充実
効率的な経営による高い株主価値

*1 スペシャルティ領域：病院・専門医で主に処方される医薬品

*2 リージョナルバリュー製品：各国・各地域の事業戦略に適合した製品

*3 SOC：スタンダードオブケア、標準治療

【コア・バリューとコミットメント】

企業理念をもとに、私たちは、「Innovation」、「Integrity」そして「Accountability」を持って行動し、次のコミットメントを果たします。

コア・バリュー

Innovation / Integrity / Accountability

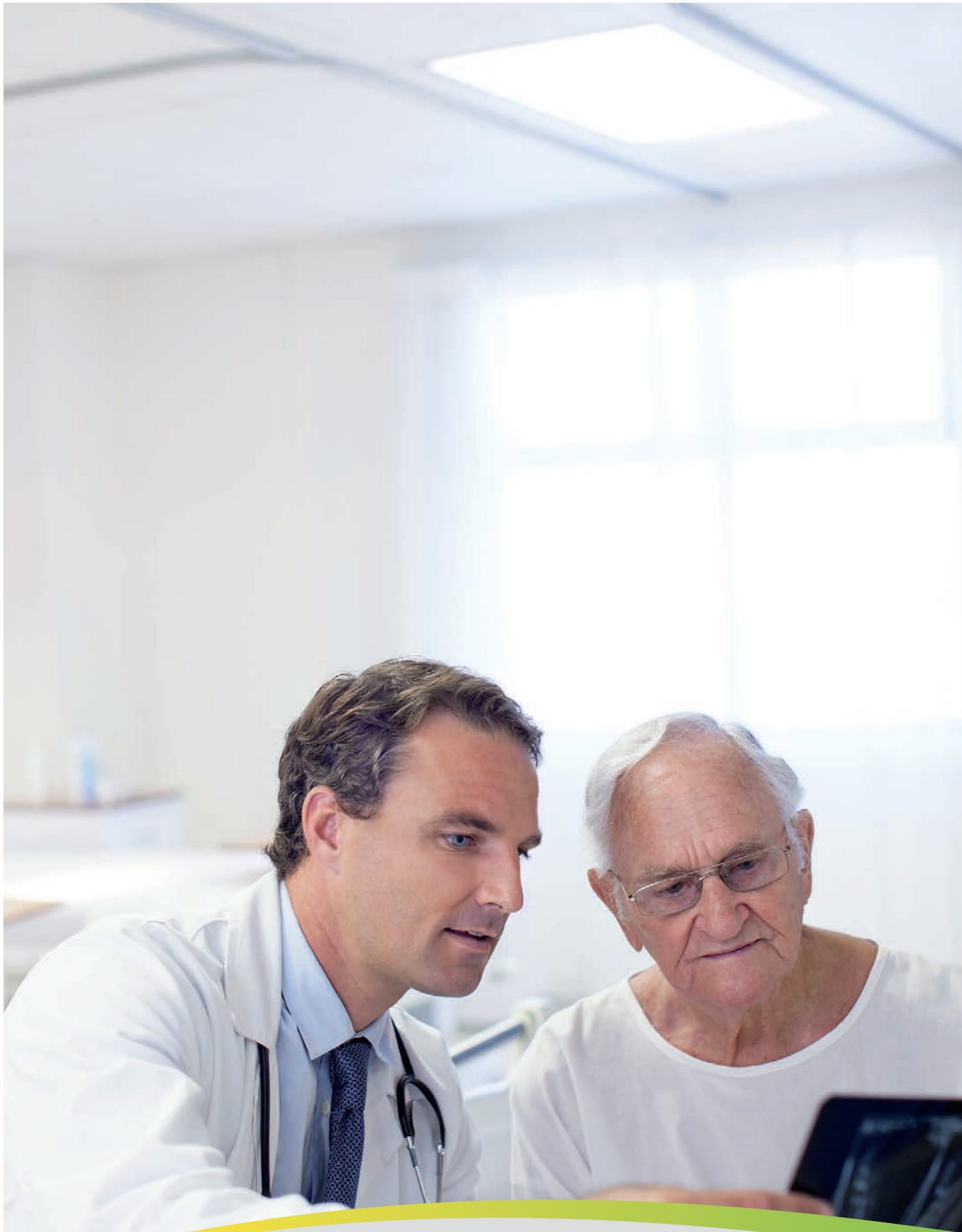
Innovation …… 社会や人々の生活に大きな変化を与える新しい仕組みや発明などを創造すること

Integrity …… 法令、規則、個人行動原則などを遵守し、誠実さと高い規範を保つこと

Accountability …… 行動の結果に責任を持ち、その結果に至ったプロセスに対して、十分な説明ができること

コミットメント

1. SOCを変革する先進的医薬品の創出
2. グローバルな視野とリージョナルバリューの尊重
3. アカデミックな探究心と先見性のある洞察力
4. 高品質な医療情報の提供
5. 高品質な医薬品の安定供給
6. 信頼される医療パートナー
7. 目標実現への強い意志
8. プロフェッショナルな個人と強いチームワーク



トップメッセージ

第一三共は企業理念として「革新的医薬品を継続的に創出し、多様な医療ニーズに応える医薬品を提供することで、世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する」ことを掲げています。医薬品産業を取り巻く環境は、業界内外・国内外ともに刻々と変化が続いています。このような状況において、私たちは、2025年ビジョンである「がんに強みを持つ先進的グローバル創薬企業」に向け、新薬メーカーとしてアンメットメディカルニーズの充足に努めていくとともに、医療サービス全体を視野に入れ、ワクチン・ジェネリック・OTC 医薬品など、多様な医療ニーズに応える医薬品を提供してまいります。医療産業に属する企業として、より高い業績を達成し経済に貢献する責任とともに、医療サービスシステムの一翼を担う責任、この2つの責任を高い水準で果たし、日本を代表する企業として、そして世界においても先進的で優れた企業として、すべてのステークホルダーの皆さまから信頼されるよう、鋭意努力してまいります。今後とも引き続きご支援賜りますよう、お願い申し上げます。



代表取締役社長 兼 CEO

真鍋 淳

最新情報はこちら



グローバル事業展開

第一三共の薬は、日本国内だけでなく、アジア、欧州、米国、その他さまざまな国で使われています。世界各地のグローバルニーズを捉えグローバル医薬品事業に反映するため、バリューチェーンの一環としての研究開発、サプライチェーン、マーケティングなど、さまざまな部門間の情報交換を促進させる活動を行っています。世界に通用する新薬を創出し、世界の医療現場にお届けすることで、国境を越え、世界の人々の健康に貢献してまいります。



国内事業展開

イノベティブ医薬品

イノベティブ医薬品は第一三共グループの中で、グループの収益基盤を担う中核事業として位置付けられています。未充足の医療ニーズに応える、あるいは治療満足度をさらに上げる高品質な医薬品を、患者さんの視点を忘れず、医療関係者の立場にたって正確に、迅速に、分かりやすい情報とともにお届けし、皆さまの微笑みに満ちた健康で豊かな生活に貢献してまいります。

OTC 医薬品

近年、「セルフメディケーション」という考え方が浸透しています。さらにその傾向は強まり、ニーズも多様化していくことが考えられます。そこで、第一三共グループは、OTC 医薬品に加え、機能性スキンケア・食品などの分野も含めたヘルスケア事業をコア事業のひとつと位置付け、グループ会社のひとつである、第一三共ヘルスケア株式会社を通して「セルフメディケーション」のさらなる発展に取り組んでいます。

ワクチン

第一三共は、ワクチン事業全体（研究・開発、CMC研究、生産、流通・販売、信頼性保証）の役割を担い、ワクチン製造を担う生産機能会社である第一三共バイオテック株式会社との連携を通じて、国民の皆さまに必要なワクチンの創出と安定供給を推進し、保健衛生の向上に貢献して参ります。

ジェネリック医薬品

第一三共グループは、新薬メーカーとしてこれまで培った信頼や安心をベースに、患者さんに選ばれるジェネリック医薬品を提供しています。原薬・添加物・製法等が先発医薬品と同一のジェネリック医薬品オーソライズド・ジェネリックを積極的に展開する等、医療への貢献を図ってまいります。

最新情報はこちら



研究開発

各研究開発段階における重点領域

第一三共グループは、アンメットメディカルニーズを的確にとらえ、これに対応した研究開発を展開し、将来的な医療満足度の向上に貢献しようと考えています。研究から初期開発段階では、“がん”を重点領域と定め、それに加えて疼痛、中枢神経系疾患、心不全・腎障害、希少疾患などの次世代領域を標的疾患とした研究および開発を進めることでSOCを変革する先進的新薬の創出を目指しています。

ダイバーシティから生まれるイノベーション

第一三共グループの研究は、日本、米国、ドイツの各拠点が密接に連携しながら、グローバルに展開しています。日本には、中核となる第一三共と、創薬基盤プラットフォームを担う第一三共RDノバーレがあります。海外には、低分子医薬の基本構造に基づくドラッグ開発技術を有するプレキシコン、ヒト組織を用いた研究技術を有するドイツのTissue and Cell Research Center Munich (TCRM)があり、各々の強みを活かした新薬の研究を進めています。第一三共グループの開発は、グローバル開発候補品を一日も早く、より多くの地域の医療現場にお届けできるようにするために、日本、米国に加え、中国、韓国、台湾、タイ、香港などのアジアの各拠点が密接に連携し、一体となってグローバル開発を進められる体制を整えています。

研究

初期開発

後期開発

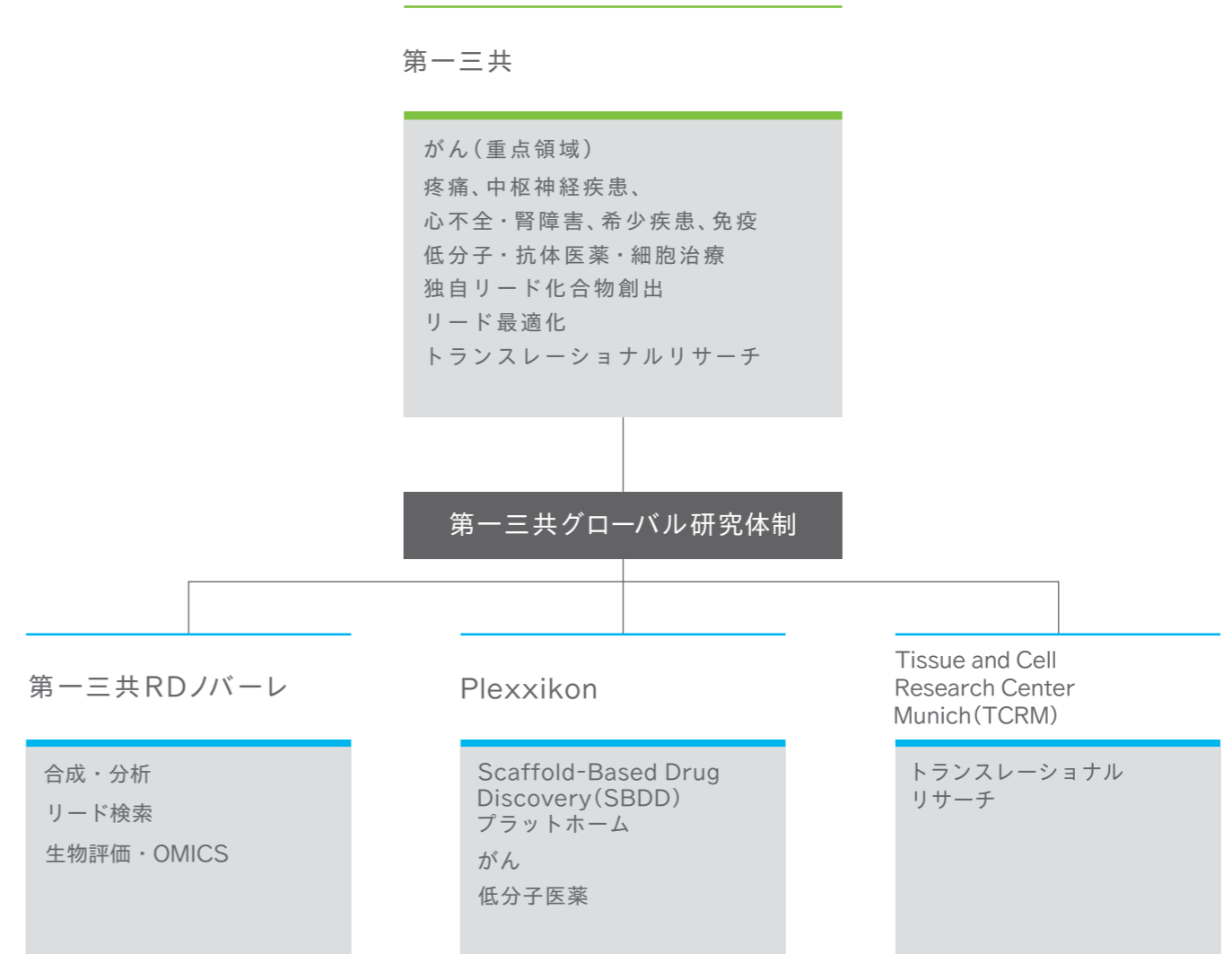
ライフサイクル
マネジメント

がん(重点領域)
疼痛
中枢神経疾患
心不全・腎障害
希少疾患
免疫

がん(重点領域) 循環代謝 疼痛 希少疾患

血栓 高血圧 疼痛

グローバル研究体制図



意思決定機関「GEMRAD」

第一三共グループは、研究段階からサイエンスとビジネスの視点をもって議論を活発に行い、人的・物的資源の投入が、グローバルな観点から、より効果的になるように努めています。また、権限委譲を積極的に進めつつ、会議プロセスを恒常的に改善し、意思決定の迅速化を図っています。特に、研究開発における最高意思決定機関である「GEMRAD(Global Executive Meeting of Research And Development)」は、研究開発のみならず、製薬技術、バイオロジクス、マーケティング、事業開発、ファイナンスなど、幅広い専門機能の代表者によって構成され、総合的な見地から適切な意思決定を行っています。

最新情報はこちら





最新情報はこちら



国内と世界拠点が連携したグローバルな開発体制

第一三共の開発は、日本、米国、欧州、アジアの各拠点が密接に連携し、グローバルに展開しています。

臨床試験では世界中で蓄積した専門知識を共有し、グローバルな意思決定を行っています。

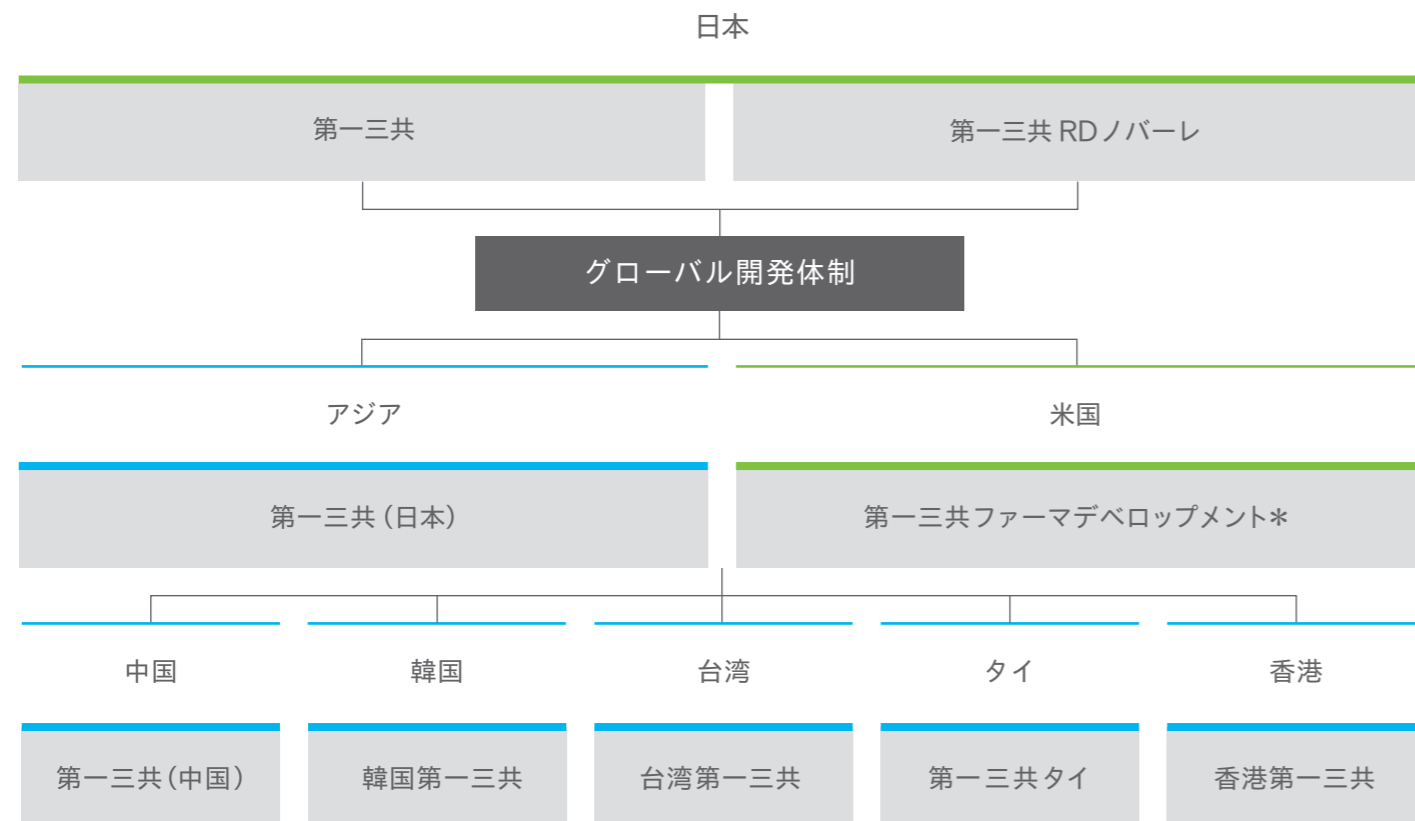
第一三共RDノバーレ株式会社を含む国内拠点、ニュージャージー州にオフィスを持つ米国の開発会社

第一三共ファーマデベロップメントは、連携してグローバルに医薬品の開発を進めると共に、

各地域における臨床試験を管理・運営しています。また、グローバル開発におけるアジアの拠点として、韓国第一三共株式会社、

台湾第一三共股份有限公司および第一三共(中国)投資有限公司は、継続的な製品上市に貢献しています。

グローバル開発体制図



*第一三共インク(Daiichi Sankyo, Inc.)の開発部門

徹底した品質と安全性の確保、 そしてグローバル基準の安定供給 をお約束します

[品質への取り組み]

私たちは、研究開発段階で証明した優れた薬効を持つ医薬品を、優れた製薬技術により工業化し、生産過程でその品質を恒常的に再現し、皆さまにお届けしています。第一三共では、国内および欧米など海外のGMP(Good Manufacturing Practice: 医薬品の製造管理および品質管理規則)に盛り込まれた精神を高い基準で達成し、原材料の納入から生産、製品の出荷を通して科学的に裏付けされた管理を行って製商品の品質を保証し、市場に対する責任を果たす体制を確立しています。これからも皆さまに安心してご使用いただけるように、グローバル水準の品質保証を行っていきます。

[安全管理体制]

世界の人々の健康に貢献する薬。しかし、どんなにすばらしい薬であっても、副作用のリスクが全くないというものはありません。だからこそ第一三共では、安全管理には万全を期すべく社内体制を整えるとともに、社員一人ひとりの安全対策への意識を高めるよう努めています。第一三共は、国内においては、自ら網羅的に安全管理情報(副作用情報など)を収集し、客観的な評価・検討に基づいた適正使用情報を医療現場へ情報提供しています。また、海外からの安全管理情報も収集・評価・検討を行い、グローバル製薬企業の安全管理部門として、グローバルに安全対策を実行できるよう努めています。

国内外からの安全管理情報を客観的に分析し、医療現場へ情報提供することで医薬品の適正使用を推進し、患者さんの安全性リスクの最小化に努めています。

[安定的な生産供給体制]

製薬企業には、高品質の医薬品を確実にそして安定的に供給しなくてはならない使命があります。

第一三共では、この役割を果たすため「ユーザが安心できる原材料を安定的に調達し、計画的に生産する機能」「受注後、迅速かつ確実に配送するロジスティクス機能」を統合し、情報の一元化を図ることで柔軟かつ効率的な生産供給体制(サプライチェーンマネジメント)を構築しています。

また、海外生産拠点との連携により、グローバル市場への安定的な供給体制を確立しています。医薬品は、その効能を有効かつ安全に発揮するように設計されています。開発された医薬品の品質を

設計どおりに生産で再現させ、信頼性の高い製品を安定的に供給するには、ハード・ソフトの両面から科学的に検証した生産管理体制を構築する必要があります。第一三共は品質・安全管理体制により世界に通用する高レベルの基準を独自に確立し、

信頼性の高い医薬品のグローバル供給体制を構築しています。世界中のどこにいても、同じ安心を得られる薬が作られ、供給されている。第一三共はこれからも品質・安全管理・安定供給に努めます。



最新情報はこちら



研究開発から生まれた 代表的な製品

長い年月を経て多くの知識と技術の結晶が
医療現場に届けられています。



抗凝固剤「エドキサバン」

エドキサバンは、第一三共が独自に創製した1日1回投与の経口抗凝固剤であり、血管内で血液凝固に関与するFXa(活性化血液凝固第X因子)を選択的、可逆的、かつ直接的に阻害する作用メカニズムを持っています。エドキサバンは2011年7月よりリクシアナ®の販売名で「下肢整形外科手術(膝関節全置換術、股関節全置換術、股関節骨折手術)施行患者における静脈血栓塞栓症(VTE)の発症抑制」を効能・効果として国内で販売しました。心房細動に伴う虚血性脳卒中および全身性塞栓症の発症抑制に関する試験(ENGAGE AF-TIMI 48試験)、および深部静脈血栓症(DVT)、肺血栓塞栓症(PE)における静脈血栓塞栓症(VTE)の治療および再発抑制に関する試験(Hokusai-VTE試験)という2つのグローバル試験に基づき、現在では両適応症で世界20カ国以上で承認・販売をしております。第一三共は、心房細動(AF)や静脈血栓塞栓症(VTE)患者における幅広い循環器の病態、患者タイプや臨床的な背景についてエドキサバンの科学的知見を広げるべくEDOSUREと呼ばれるエドキサバンの壮大な臨床研究プログラムに取り組んでいます。EDOSUREは、エドキサバンの大規模臨床試験であるENGAGE AF-TIMI 48試験やHokusai-VTE試験から得られた結果に更に新しい科学的知見を積み上げるようにデザインされており、これまでに完了、あるいは継続、計画中の試験を含めて10試験以上の無作為化比較試験と非介入研究、レジストリーに全世界で10万人以上の患者さんが参加することが見込まれています。



最新情報はこちら





最新情報はこちら



グローバル組織体制

変化の激しい経営環境の中で成長していくために第一三共は、
5つのコーポレートユニットと、7つの機能ユニット、事業ユニットからなる
グローバル経営体制を設けて、戦略的な意思決定と戦略の実効性を高めています。

CEO

コーポレートユニット

経営戦略

DX推進

製品戦略

事業開発

総務

『経営戦略ユニット』『DX推進ユニット』
『製品戦略ユニット』『事業開発ユニット』
『総務ユニット』の5ユニット体制で、
CEOのグローバルな戦略立案、
推進管理をサポートしています。

事業ユニット

医薬営業(日本)

DSUSB(米国)

第一三共ヨーロッパ GmbH(欧州)

ASCA*

アメリカン・リージェント(米国)

第一三共ヘルスケア(日本)

日本国内の医薬営業ユニットと
グループ会社に加え ASCA カンパニー
(ASCA=Asia, South & Central America)
という社内カンパニー組織を設置しています。

*ASCA:日米欧以外の国・地域を表す社内略称

秘書

監査

ジェネラルカウンシル

機能ユニット

研究開発

バイオロジクス

製薬技術

サプライチェーン

メディカルアフェアーズ

信頼性保証

安全管理

グローバルに戦略を策定し執行していくことができるよう、『研究開発』『バイオロジクス』『製薬技術』
『サプライチェーン』『メディカルアフェアーズ』
『信頼性保証』『安全管理』の7つの機能を
それぞれユニットとして編成しています。
各機能ユニットではグローバルに展開すべき事項を定め、
それら事項に関する戦略の立案と執行を指揮し、
併せて事業運営効率の向上を図っています。



最新情報はこちら



国内グループ会社とともに、 さらなるシナジーを

イノベティブ医薬品、OTC医薬品、ワクチン、ジェネリック医薬品などにおいて、日本国内9社のグループ会社の技術融合により、さらなる価値創造とバリューチェーン全体におけるシナジーを発揮させていただきます。



[ジェネリック医薬品]

第一三共エスファ株式会社

「多様な医療ニーズに応える医薬品を提供する」という第一三共グループの基本的な考えのもと、ますますニーズが高まってきているジェネリック医薬品を中心に、医薬品に最も大切な「品質」「情報」「安定供給」、そしてジェネリック医薬品が持つ「経済性」の面からも、安心してご使用いただける製品の提供に努めて事業展開をしています。

www.daiichisankyo-ep.co.jp



[OTC医薬品]

第一三共ヘルスケア株式会社

セルフメディケーションの浸透に伴って、多様化するニーズに応える第一三共のOTC医薬品分野を担う会社。製薬会社オリジンの研究開発力とマーケティング力を活かし、スイッチOTCをはじめとしたOTC医薬品や機能性スキンケア・食品などを製造、販売。頭のとっぺんから足のつま先まで、全身をカバーする「トータル・ヘルスケア」の実現をめざしています。

www.daiichisankyo-hc.co.jp

OTC 医薬品とは

医師に処方してもらう「医療用医薬品」ではなく、薬局やドラッグストアなどで買える「一般用医薬品」と「要指導医薬品」のこと。英語で「Over The Counter」の略語で、対面販売で買えることを意味しています。

[研究・開発]

第一三共RDノバール株式会社

医薬品の初期探索研究機能を集約した創薬基盤ユニット、各種分析サービスを提供する分析センター、高品質な治験モニタリングおよび関連業務を担う臨床開発の3部門からなり、医薬品の研究開発プラットフォームを構築・提供することで革新的な医薬品創製の一翼を担っています。

www.daiichisankyo-rdn.co.jp

[グループのビジネスサポート業務]

第一三共ビジネスアソシエ株式会社

第一三共グループ各社の基幹ビジネスサポート業務（人事・経理・営業関連事務・購買業務・総務）の受託に加え、保険代理業ならびに不動産事業を展開。専門性に基づく「業務品質」「効率」の追求により、高い顧客満足度を実現します。

第一三共ハピネス株式会社

第一三共グループの障がい者雇用を推進するために、障がい者雇用促進法に基づき設立された特例子会社。クリーニング、実験器具洗浄、社内郵便などを通じてグループ内にさまざまなサービスを提供しています。

www.daiichisankyo.co.jp/happiness/

[製造]

第一三共プロファーマ株式会社

第一三共が創製した医薬品のグローバル主要製造拠点として高品質な医薬品の安定供給に努めています。さらに新薬の臨床試験に用いる治験薬も製造している開発型医薬品製造会社です。

www.daiichisankyo-pp.co.jp

第一三共ケミカルファーマ株式会社

工場生産に密着した技術により、開発のスピードアップ、安定供給、高品質、コスト低減を効率的に実現して、医薬品原薬・中間体をより早く、より安く、安定的に提供することを目指している医薬品製造会社です。

www.daiichisankyo-cp.co.jp

第一三共バイオテック株式会社

第一三共のワクチン製造を担っています。必要なワクチンを適時に安定供給するとともに、バイオ生産技術の向上に取り組むことにより、日本の保健衛生に貢献することを目指している医薬品製造会社です。

www.daiichisankyo-bt.co.jp

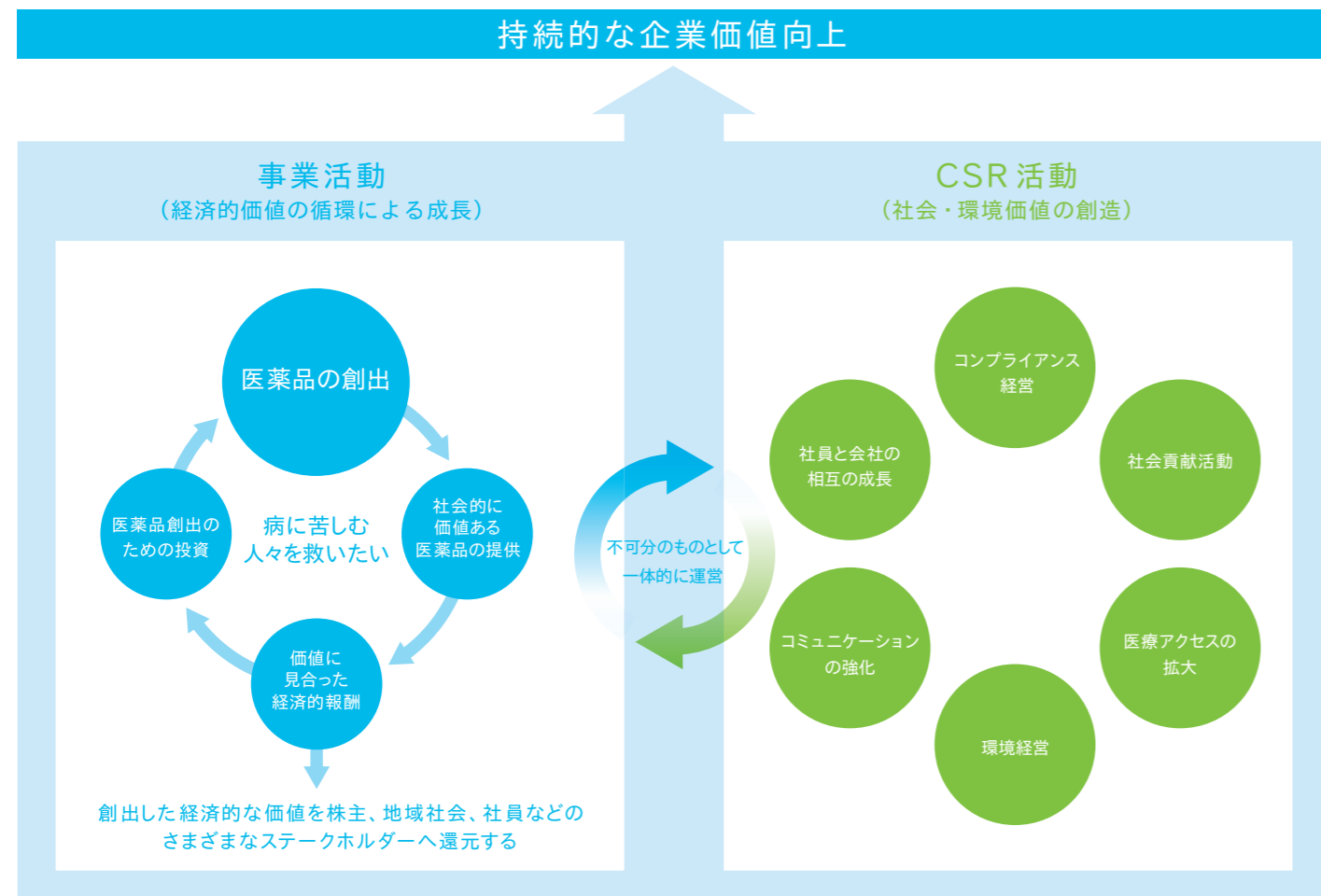
最新情報はこちら



第一三共グループは、事業と一体化したCSR活動を行い、世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献します

持続的な企業価値の向上に向けたCSR活動

製薬企業は、医薬品の創出を通じて世界中の多様な医療ニーズに応え、患者さんのお役に立つことが存在意義であり、私たちの事業の中核です。創出した社会的に価値のある医薬品を提供し、その価値に見合った経済的報酬をいただきます。それによって得た経済的な価値を株主の皆さまをはじめとするさまざまなステークホルダーに適切に還元するとともに、新たな医薬品創出のための投資へとつなげていきます。この事業活動による経済的価値の循環を持続的に成長させていくことが、製薬企業における企業価値を創造し、持続的に向上させていく根幹です。そして、社会・環境問題をはじめとするサステナビリティ(持続可能性)を巡る課題の中から、第一三共グループとして重要な課題を明確にし、CSRに関する6つの活動分野に分類し、取り組んでいます。このようなCSR活動に取り組むことは、社会・環境価値を創造するとともに、リスク管理の観点からは、企業価値の毀損を回避することにもつながると考えています。当社グループは、事業とCSR活動を不可分のものと考え、一体的に運営し持続的な企業価値の向上を図っていきます。



医療アクセスの拡大

医療アクセスの拡大は製薬企業の重要な使命の一つです。開発途上国におけるグローバルヘルスや、先進国における難病・希少疾患に対する医薬品アクセスなど、健康と医療に関する社会課題の解決に向け、第一三共のリソースを有効活用し、貢献していきます。グローバルに取り組むべき課題として、国連加盟国が採択した持続可能な開発目標(SDGs)では、2030年までに達成すべき17の目標が掲げられています。中でも保健分野は、目標3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」に定められています。当社グループは、医薬品の創出や開発途上国における医療アクセスを拡大する取り組みを通じ、SDGsの目標3に資する活動を行っています。



GHIT Fund への参画と GHIT Fund を通じたグローバルヘルスにおける研究開発の促進

開発途上国における感染症を制圧するための創薬促進に向け、官民連携パートナーシップが必要であるという考えのもと、2013年4月に日本国政府、製薬企業6社、ビル&メリンダ・ゲイツ財団による日本発の官民連携パートナーシップとして設立された公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金「GHIT Fund」に参画しています。また、当ファンドによる結核、マラリアおよび顧みられない熱帯病(リーシュマニア症・シャーガス病)に関する共同研究を進めています。

難病・希少疾患の研究開発の促進

先進国においては、予防医療や希少疾患に関する課題が存在します。当社は、Orphan Disease Treatment Instituteと共同でデュシェンヌ型筋ジストロフィー治療用の核酸医薬を開発しています。また、ビオプテン、ギャバロン髄注などの希少疾病用医薬品を提供しています。

医療インフラが未整備な地域における移動診療サービスの提供、保健人材の育成

タンザニアでは、医師不足や病院へのアクセスが悪いなどの医療インフラが未整備の地域に貢献するために、NGO、現地政府、地域社会と協力して移動診療サービスを提供し、乳幼児への予防接種や妊産婦健診を実施しています。また、中国の雲南省廣南県では、小児疾患統合管理研修(IMCIトレーニング)の実施による保健人材の育成やコミュニティーセンター設置による地域住民の疾患対応能力向上のための保健教育を行い、当地域における5歳未満児の健康・栄養状態の改善を目指しています。



第一三共の歩み

第一三共の歴史を、三共と第一製薬の創業からの歩みも含めてご紹介いたします。

三共の歴史

1899

- ・三共商店を設立(塩原又策、西村庄太郎、福井源次郎の共同出資による)

1910

- ・鈴木梅太郎博士(1920年、三共の学術顧問に就任)、米ぬかから世界初のビタミンB₁(オリザニン[®])を発見し、ビタミン学説の基礎を確立

1913

- ・三共株式会社となる
- ・初代社長に高峰讓吉博士が就任

1949

- ・東京証券取引所上場

1951

- ・かぜ薬ルル[®]を発売

1977

- ・抗悪性腫瘍剤クレスチン[®]を発売

1986

- ・鎮痛・抗炎症剤ロキソニン[®]を発売

1989

- ・世界的に画期的な高コレステロール血症治療剤メバロチン[®]を発売

1992

- ・メバロチン[®]の開発により大河内記念生産特賞を受賞

1994

- ・東京日本橋に本社旧社屋が竣工

1998

- ・小名浜、小田原両工場が日本の製薬企業として初めてISO14001認証を取得

第一製薬の歴史

1915

- ・アーセミン商会を創業

1918

- ・第一製薬株式会社が発足
- ・初代社長に柴田清之助が就任

1937

- ・国産第一号サルファ剤となった細菌性疾患薬テラポール[®]を発売

1949

- ・東京証券取引所上場

1965

- ・本社旧社屋が竣工
- ・抗プラスミン剤トランサミン[®]を発売

1966

- ・初の成形バップ剤パテックス[®]を発売

1973

- ・育毛剤カロヤン[®]を発売

1985

- ・広範囲経口抗菌製剤タリビッド[®]を発売(日本、西独)

1993

- ・広範囲経口抗菌製剤クラビット[®]を発売



第一三共の歴史

2005

- ・第一三共株式会社を設立(三共と第一製薬との共同持株会社)

2006

- ・第一三共ヘルスケア、第一三共INC.が営業開始
- ・欧州新組織第一三共ヨーロッパ GmbHが事業開始

2007

- ・2007年4月1日新生第一三共グループとしてスタート

2008

- ・ドイツのU3ファーマ、インドのランバクシーをグループ化

2009

- ・グローバル製品の抗血小板剤プラスグレルをドイツ(Effient[®])、米国(Effient[®])で発売

2010

- ・高親和性ARB/持続性Ca拮抗薬配合剤レザルタス[®]、抗インフルエンザウイルス薬イナビル[®]を発売
- ・第一三共エスファが営業開始

2011

- ・米国のプレキシコンをグループ化
- ・北里第一三共ワクチンが営業開始
- ・アルツハイマー型認知症治療剤メモリー[®]、経口FXa阻害剤リクシアナ[®]、プロトンポンプ阻害剤ネキシウム[®]を発売
- ・第一三共が本社移転
- ・国内グループ会社本社も東京日本橋に拠点を集約
- ・第一三共(中国)投資有限公司を設立

2012

- ・「Daiichi Sankyo くすりミュージアム」を開館
- ・抗RANKL抗体ランマーク[®]、2型糖尿病治療剤テネリア[®]を発売

2013

- ・骨粗鬆症治療剤プラリア[®]を発売

2014

- ・抗血小板剤エフィエント[®]を日本国内で発売

2015

- ・抗凝固剤エドキサパンを米国(SAVAYSA[®])、欧州(LIXIANA[®])で発売
- ・第一三共ヘルスケア株式会社が通信販売事業基盤構築のためアイム社をグループ化

2016

- ・抗てんかん剤ビムバット[®]を発売

2017

- ・2型糖尿病治療剤カナリア[®]配合錠を発売
- ・選択的DPP-4阻害剤テネリア[®]錠とSGLT2阻害剤カナグル[®]錠の配合剤2型糖尿病治療剤カナリア[®]を発売

2019

- ・トラスツマブ デルクステカン(DS-8201、HER2に対する抗体薬物複合体(ADC))に関するアストラゼネカとのグローバルな開発及び商業化契約を締結
- ・疼痛治療剤タリジェ[®]を発売
- ・高血圧症剤ミネプロ[®]を発売
- ・腱滑膜巨細胞腫「TGCT」を適応としたTURALIO[™]を米国で発売
- ・抗悪性腫瘍剤ヴァンフリタ[®]を発売

2020

- ・抗悪性腫瘍剤エンハーツ[®]をHER2陽性の手術不能又は再発乳癌を適応として発売(米国:1月、日本:5月)

最新情報はこちら





イノベーションに情熱を。ひとに思いやりを。



Daiichi-Sankyo

第一三共株式会社

最新情報はこちら



第一三共ウェブサイト